



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立真駒内桜山小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

【読み聞かせによる本との出会い】

校長先生による読み聞かせでは、絵本の世界に引き込まれるひとときとなり、多くの子どもたちが楽しんでいました。

図書ボランティアさんによる全学年への読み聞かせも継続しており、高学年でも真剣に聞き入る姿が見られます。

【読書を楽しむイベントの充実】

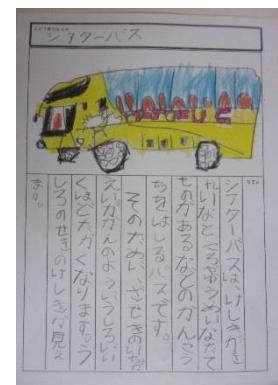
開放図書さん主催の「読書スタンプラリー」では、読んだ本の冊数をきっかけに読書意欲が高まりました。また、3年生が国語の学習で作成した「おすすめの本紹介」を低学年に届ける取組も行われ、学年を超えた温かな読書交流が生まれています。



学習センターとしての機能

【調べ学習で深まる学び】

1年生の国語「じどう車くらべ」では、教科書で学んだ働く車について、図書館にある図鑑を使い、特徴や働きを調べました。自分の言葉でまとめたオリジナルの「はたらく車すかん」を作成することで、必要な情報を選び取る力や、学びを自分なりに整理する力が育っています。図書館が学びを支える場として、生きた学習につながっています。



情報センターとしての機能

【義務教育学校開校を見据えた蔵書整備】

再来年度の義務教育学校開校に向け、小中の関係者と協力し、双方の児童生徒が手に取りやすい蔵書の選定を進めています。

【委員会による情報発信】

図書委員会では、「本となかよしな桜山の子」をめあてにクイズラリーを実施しました。設問は興味を引いてもらえるように工夫したことで、子どもたちがさまざまな新しい情報に触れるきっかけとなりました。図書館が、子どもたちの関心を広げる場としての役割をより発揮しています。

